

■第4回江別市都市計画マスタープラン等小委員会 議事概要

日 時 令和5年2月1日(水) 9:30~11:10

場 所 江別市民会館36号室

出席者

小委員会委員(7名):小篠委員長、石橋委員、三好委員、鈴木委員、角田委員、落合委員、佐藤委員

事務局:江別市企画政策部(6名)、日本工営(株)(2名)

議事次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 議事
 - (1) 都市計画マスタープランの改定
 - ・全体構想
(計画概要、現状と課題、将来都市像と都市づくりの目標、都市づくりの方針)
 - (2) 立地適正化計画の策定
 - ・都市の分析と基本方針
(計画概要、現状と課題、基本方針、誘導区域・誘導施設の考え方)
4. その他
5. 閉会

1. 開会

- ・委員8名中7名の出席となっており、本小委員会が成立していることをご報告する。(事務局)

2. 委員長挨拶

- ・都市計画マスタープランと立地適正化計画を策定する小委員会ということで、前回から資料を改善したので、皆様にご確認、議論いただきたい。年度内の最終版として、中間報告案を完成させることができればよいと考えている。(小篠委員長)

3. 議事

<事務局説明省略>

<質疑応答>

- ・【商店街について】大麻は、近くに商店街がない、もしくは機能していないため、買い物がしづらく、車でスーパーに行かなくてはならない状況。既存の商店街の活性化が非常に重要になっており、まちづくり関係の組織をまとめ、まちづくり協議会やまちづくり株式会社を作りながら、まちづくりを進めることが必要と考えている。また、新しい商店街についても考える必要がある。江別には色々と面白い小売店があるが、点在しているので、それを誘導しながら一つの商店街にしていくことは出来ないのか。(三好委員)

事務局回答要旨

⇒前回の小委員会でも、商店街を何かしら考えていくべきではないかという意見があったことから、土地利用の方針の商業業務地に、商店街を新たに位置付けている。

商店街は、近年商業施設としてだけでなく、地域住民の社会活動の場としても活用されており、例えば、大麻の銀座商店街や扇町商店街は、空き店舗を活用して、カフェなどを開くという動きも進められている。そのようなことを踏まえ、今回、全体構想の中で商業業務地に商店街を位置付けて、令和5年度に地域別構想の中で、何かしら具体的な位置づけを出来るのかも含めて、考えていきたい。

なお、都市計画マスタープランは、基本的に土地利用をどのように推進するかの計画であるため、近い将来の土地利用を見据えて位置づけを行い、可能性が生じたときに引用できるような書き方にしている。

小篠委員長回答要旨

⇒まちづくり活動の支援をマスタープランにどのレベルで書き込めるのか考えていきたい。単刀直入に、商店街の活性化とは書けないので、滲ませて書いているが、言葉の裏に

は、事務局が説明したような意図があることを知りたい。市民の方であれば、もう少し具体的に記載して欲しいと感ずることがあるかと思うので、地域別構想の議論の中でももう少し検討できれば望ましい。

- 【公共交通について】コミュニティバス（エリアバス）は、まちの活性化や高齢化を踏まえても重要と考える。他地域で事例のあるコミュニティバス（エリアバス）あるいは空きタクシーなどの実証実験を行なっていくべきではないか。（三好委員）

事務局回答要旨

⇒現在、新たな交通手段としては、郊外でデマンド交通を導入したところであるが、コミュニティバスなどの市街地における今後の取り組みにおいては、既存の公共交通事業者との兼ね合いなどの現実的な話もあることから、関係部署に投げかけて、今回の議論の内容を共有する。

- 【江別らしさについて】私のゼミで学生からまちづくりについて意見を聞く機会において、江別について、利便性は充分なのでアイデンティティを取り入れてほしいという意見があり驚くとともに非常に重要だと思った。市民意見交換会などで江別の強みを意見聴取し、江別のアイデンティティ・江別らしさをまちづくりに表現してほしい。（三好委員）

事務局回答要旨

⇒市民アンケートなどからは、満足している点として、良好な居住環境や自然環境などの話もあったことから、そこも踏まえ、都市づくりの基本目標の4つ目に、江別らしさというものを掲げた。

来年度予定している市民意見交換会で交わされる意見も参考にしたいと考えるが、市民アンケート等の結果を見た中では、江別の一番良いところは、住みやすさに行きつくのではないかという印象はある。

- 【江別らしさについて】都市づくりの基本目標のひとつ「江別らしさを生かした住みよい都市」にレンガなどの特産品と記載があるが、レンガをひとつのアイデンティティにするならば、現在、建築協定で定められている対象範囲を広げることなども、意図しているのか。（角田委員）

事務局回答要旨

⇒建築協定については、基本的には、土地の所有者等から申請があって、市が受けて協定という形になるもので、市から働きかけるものではないが、宅地開発の事例を見ると、開発区域を囲う塀にレンガを使用していたり、事業者の方も江別と言えばレンガというところを少しは意識されているものと見ている。

また、都市計画マスタープラン以外に景観形成基本計画というものもあり、その中でもレンガの活用を推進する方針を示している。その他に、大きい施設を建てられる時にお問い合わせがあった際に、レンガを取り入れていただくと江別の特色を表現できるとお伝え、お願いしている。

小篠委員長回答要旨

⇒景観の話で言うと、建築協定のほかに、地区計画も大事だと考える。江別市では13地区指定されているところだが、ここに地区住民による景観の保全に関する方針を新しく盛り込んでいく時期に来ていると感じている。

- 【鉄道林について】環境共生の方針図で緑の軸として記載されている鉄道林について、野幌駅周辺の鉄道林が伐採された中で、緑の軸はこのままでいいのか。あるいは、それに対して、どのように考えるのか。（角田委員）

事務局回答要旨

⇒伐採された鉄道林については、台風による倒木や鉄道の高架化などにより機能が失われたところと認識している。他にも残っている鉄道林は多くあることなども踏まえながら、緑の基本計画とも考え方の整合を図っていききたい。

- 【道路網について】現在未整備の南大通や道道札幌北広島環状線はどちらも5丁目通・江別恵庭線に接続されるが、当該道路の交通量の増加をどのように考えているか。また、道道江別長沼線に関して新たな方針を取り入れる検討などは行ったのか。（角田委員）

事務局回答要旨

⇒将来道路網は、今年度各主要交差点で行った交通量調査と現行計画で利用した将来の推計交通量の比較により検討した。

推計交通量とは、10年以上前に道央圏を対象とした、道央都市圏都市交通マスタープラン策定の際に行った、パーソントリップ調査による将来交通量推計値を示す。

この結果と、今年度行った交通量調査にそれほど差異がなかったことから、現行の将来道路網で対応できるという判断。

なお、札幌北広島環状線の事業化に向けた交通量検証においても、対応できる結果となっている。

- ・【文教地区について】文京台の文教地区について、何も記載しないと10年間現状の規制のままとなってしまふ。規制内容の見直しについて、すぐに着手できないとしても、地元の方々との協議を含めて、何らかの着手に関する書き込みを検討してほしい。(鈴木委員)

事務局回答要旨

⇒本件は、地域課題の一つであるものと認識している。

このため、全体構想には書き込みをしておらず、地域別構想の中で検討したいと考えている。

- ・【除雪の問題、住環境について】100坪の土地を50坪に分けて、それぞれの土地に30坪の家を建てるような手法が進められている。効率は良いかもしれないが、雪処理のスペースを確保できないことから生じる苦情がすべて自治会に集まり困っている。敷地面積に制限のある地区計画区域以外の住宅地について、堆雪スペースの確保や土地を小割りにして売却することなどに対する注意喚起など、何らかの記載をできないか。ゆとりある住宅地の形成とあるが果たして現状と合っているのか。(鈴木委員)

事務局回答要旨

⇒地区計画の区域内であれば戸建て住宅の多いエリアは200㎡以上、その他の店舗などを建てられるエリアは230㎡以上という制限がある。地区計画区域外の話ということになるが、個人の財産に大きく影響するので、都市計画で制限をかけるのは難しいと考える。

この様な事案は、地価の上昇に伴い、近年になって増えてきた感覚がある。

小篠委員長回答要旨

⇒他自治体では、行政や町内会が空き地を管理し、雪捨て場としている事例もある。建築審査の段階ではコントロールできないと思うので、コミュニティの方で色々な捉え方ができるように、また、行政がサポートできるような形で記載を地域別構想の中で検討しても良いと考える。

- ・【歩行系道路について】将来都市構造図に今回追加した幹線歩行経路について、線が少し細く感じる。幹線道路や幹線歩行経路を、図として出しているの、将来どのようになっていくのかについて、触れた方が良いのではないかと。(石橋委員)

事務局回答要旨

⇒それぞれの道路の定義は書いているが、もう少し意図が伝わるよう、わかりやすい表現にしたい。幹線歩行経路についても、見易さを工夫したい。

- ・【人口推計について】将来人口推計について、人口減少や高齢化率の増加の分析は間違いはないが、高齢者人口はあまり変わらないというデータもある。一方で更に先のデータを見ると高齢者人口はがくっと減る。今回は10年後が目標年次ではあるが、今からある程度見据えることも必要かと思う。また、年少人口はどんどん減っていくというデータもある。子育て支援に力を入れるという話であれば、ここが人口減少のメインであるということについても記載が必要と考える。(石橋委員)

事務局回答要旨

⇒計画期間は今回10年としているが、基本的にはその先の20年まで見越して、人口密度などを見ていく。市の総合計画でも、子育て世代を伸ばしていこうという考えであることから、その辺りも意識して、若年層に関する分析を加えたい。

- ・【都市機能の立地状況の分析について】内科・外科・小児科のいずれかを持つ医療施設の分布図とあるが、小児科・内科・外科は全然違うので、それぞれ個別に分布を見ないと現状分析にはならないのではないか。

児童クラブなどのニーズが非常に高まっている。将来を見据えるのであれば、幼稚園や保育園だけでなく児童クラブなどについても触れても良いのではないか。(石橋委員)

事務局回答要旨

⇒医療施設について、今後子育て世帯用の分析で、小児科やそれ以外の診療所などといった分類も含めて、検討・議論できるような資料を準備したい。子育て支援施設の児童クラブについても、配置状況など、今後を見据えて議論できるような資料をご提示したい。

- ・【避難所について】数的には充足されつつあるのではないかと思うが、避難時には徒歩での移動となるため、徒歩圏の中でどれだけ網羅しているかの分析も必要になってくるのではないか。合わせて人口密度のデータも重ねると分析に説得力が出ると思う。(石橋委員)

事務局回答要旨

⇒徒歩圏と避難所の関係や考え方について、所管部署の意見を聞きながら、分析を行いたい。

小篠委員長回答要旨

⇒居住誘導区域の中に、浸水想定区域が入ってくる可能性が高い。徒歩による避難の可否や既存の避難所の収容能力で足りるのかなどのデータを検証した上で、居住誘導区域を設定した根拠を説明できるよう精査する必要がある。

- ・【重点的な施策に応じた見せ方について】都市機能誘導区域ごとに設定する都市機能の分類イメージの表について、各都市機能が無作為に並べていると思うが、これから江別市がどういう方向に力をいれていくのかを考慮したうえで並べる序列を検討された方がいいのではないか。(石橋委員)

事務局回答要旨

⇒国交省の資料をイメージとして引用している。今後、江別市のイメージを検討する際には、子育て世帯を呼び込むなど、政策的な内容の反映も重要と考えているので、そのような視点も踏まえながら誘導すべき施設や表記の順番などを検討したいと考えている。

4. その他

- ・ 本日もいただいた意見などを踏まえて修正を加え、都市計画審議会への中間報告の前に、事前に皆様には報告したい。
また、都市計画審議会の日程は未定で、小委員会は、次は地域別構想の話になると思うので、作業と皆様のスケジュールを踏まえながら、またご案内したい。(事務局)
- ・ 市長選挙があるので、事務局の対応にて色々調整しなければいけないところが出てくるかと思う。今まで議論した全体構想についても少々変える必要が生じる可能性もある。年度内の成果として、都市計画審議会に全体構想等の中間報告をしていただければと思う。(小篠委員長)

5. 閉会

以上